

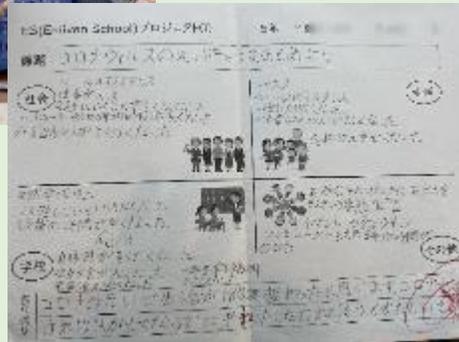
## 課題設定・情報収集

新型コロナウイルスの影響を「社会」、「生活」、「学校」、「その他」の4つの観点からインターネット等で調べたことなどを出し合い、共有した。身近な事から社会全体のことまで「想像以上に大きな影響を与えていることが分かり、大きな社会問題としてとらえることができた。

<第5学年 新型コロナウイルスの影響をまとめよう>

### ICT活用のポイント

「AND検索」や「とは検索」「画像検索」など様々な検索方法で最低限の工数で必要な情報を見つけることができた。そのため、情報の整理や、共有する時間を確保することにもつながった。



授業の様子と児童のワークシート

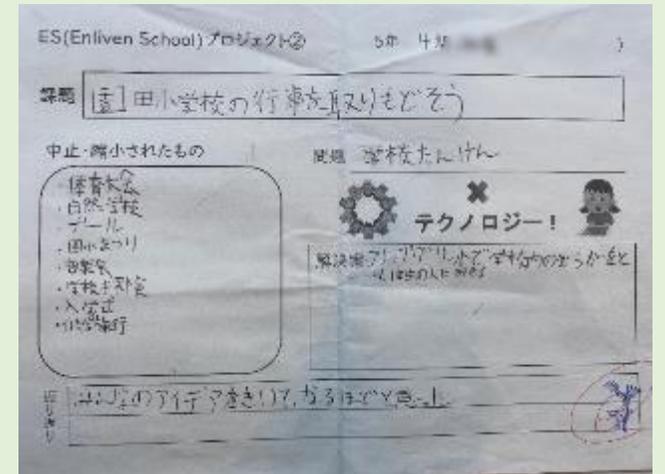
## 整理・分析

整理した課題の中から「学校」のカテゴリをフォーカスする。学校行事で中止になったものや縮小されたものをテクノロジーの力で取り戻すアイデアを考えた。修学旅行×グーグルアース、自然学校×マイクラフトなど、たくさんのアイデアが生まれた。その中から学校探検×FlipGridを行うことになった。

<第5学年 学校行事を取り戻そう>

### ICT活用のポイント

課題に合わせて自身が知っているツールをどの様に使えるのかを考える。決められた作業に取り組むのではなく、クリエイティブな発想で様々なアイデアを生み出すことができた。



児童のワークシート

## まとめ・表現

担当場所を割り振り、外観・内観・詳細・まとめの構成で絵コンテを作成し、撮影の見通しをもった。そして、探検当日用の掲示物を作成して準備が整った。準備活動を通して、「プールでは走ってはいけないと注意を入れよう」、「何をするための道具なのかを説明しよう」など、1年生がわかりやすく、また楽しめるようにはどうすればよいのかを常に意識しながら活動することができていた。

5年生と1年生がペアになり、各紹介ブースを回る。QRコードの読み取り方を教えたり、紹介動画の内容を口頭で補足したりするなど、1年生が主体的に活動できるように5年生はサポートするようにした。探検後には「学校の知らないことがわかって楽しかった。」、「動画が見られて嬉しかった。」などの感想が出た。紹介ブースは全18箇所であり、時間内に全てのブースを回れなかったペアもあった。しかし、このバーチャル学校探検は、いつでも見られることを伝えた。休んでいる人がいても参加できるし、何度でも見ることもできる。これがバーチャル学校体験のよいところ、コンピューターのよいところであるということを押さえてまとめとした。振り返りには、自分たちで作り上げた達成感を感じているものが溢れ、普段は学習に消極的な児童も含め全員が意欲的に取り組み、成功体験を得ることができたといえる。

探究的な学習のプロセスを通して、知識としてではなく経験として得た学びはより深いものになったと感じる。今後も、課題×テクノロジーでよりよい未来を創造する力を育めるような授業実践をしてきたい。

<第5学年 バーチャル学校探検>

### ICT活用のポイント

撮影したその場で編集、アップロードができるため、時間的なコストがかからない。オンデマンド型授業の側面もあるので、参加できなかった児童へにも紹介動画を届けることができる。



紹介動画（約30秒）



授業の様子（動画：約20秒）

準備の様子

## 協働的な学習 実践事例「Zoomインタビュー」(小6 総合的な学習)

【テーマ】「未来を見つめて」

【目的】世の中のいろいろな職業を知り、人生の選択肢を増やす。

- ①「13歳のハローワークマップ」から気になる職業をピックアップ
- ②担当の職業、質問事項を調べる  
ビデオ会議アプリ「Zoom」を使用し、職業人40名とオンラインで繋ぐ
- ③学びを成果物としてまとめて職業人にプレゼントする

### ICT活用のポイント

各職業人と双方向のやり取りが可能となり、職業人のリアルな“生の声”を聞くことができた。オンラインにより、「距離」の壁を取っ払い、全国の職業人と話すことが可能となった。親でも先生でもない大人との関りは、子どもたちにとって良い刺激となった。

個別最適化学習

探求的な学びの実現

協働的な学習



 インタビュー動画 (約30秒)

担当する職業の仕事内容を調べ、わからなかったことや質問を決める。どのような話し方や言葉遣いが良いかを議論する。

インタビューの時間は20分。内容を録画し、後からも視聴できるようにして質問に専念させた。仕事のやりがいや大変だったことを各職業人に事前アンケートを取って把握しておくことで、目的に沿うインタビューになるように注意した。



## 協働的な学習 実践事例「Zoomインタビュー」（小6 総合的な学習）のプロセス



教師の動き

### ① 募集

- ・企画概要書を作成し、友人やSNSで呼びかけ  
→40名が参加表明

### 【工夫】

- ・参加者名簿を作成して整理
- ・SNSでグループを組んで漏れがないように連絡

### ② 事前準備

- ・参加者に個別連絡し、時間割を組む
- ・参加者対象にアンケート  
(例) 仕事のやりがい、つらかったこと

### 【想定されるトラブル】

- ・バージョンが最新版にアップデートされていない
- ・音が小さい →スピーカーを使用

### ③ 接続チェック

- ・当日と同じ環境でチェック
- ・録画許可をとる



### 【教師の役割】

インタビューが学びに繋がるようにファシリテート

【目的】世の中のいろいろな職業を知り、人生の選択肢を増やす。



子どもの動き

### ① 職業調べ

- ・500種類以上の職業が掲載された「13歳のハローワークマップ」活用

### ② 質問事項決め

- ・調べてもわからなかったこと、聞きたいことをまとめる。  
→予め参加者に質問内容を送り、準備してもらう

### ③ Zoom練習

- ・質問の優先順位決め
- ・オンラインでの対話練習  
(例) 相槌を打つ

### ④ インタビュー本番

### 【参加者の例】

- ・銀行員 ・YouTuber
- ・ファッションスタイリスト
- ・お坊さん ・市役所職員
- ・看護師 ・美容師
- ・社交ダンスインストラクター など

## タブレットを活用した録画・編集・発表の実践

児童の発表の場面で、タブレットの録画・編集機能を活用し映像化することにより、見た人が疑似体験できるように伝えることができます。また、言葉で説明するのが苦手だった児童も映像化して伝えることにより、うまく表現できました。

活動のゴールを明確にしたり、絵コンテを活用して伝えたい事や伝える相手を整理させたり、撮影した動画がわかりやすいかどうか話し合わせたりすることにより、児童の学びの質が高まります。

### ICT活用のポイント

絵コンテは今回紙と鉛筆で行ったが、タブレットとタッチペンを活用しても良い。  
撮影では、アップとルーズで伝わる事と伝わらない事を事前に確認した。撮影を行っているうちに、児童同士の対話により、自分たちなりに最適な方法を模索していた。

<6年 総合的な学習の時間>



児童が描いた絵コンテ



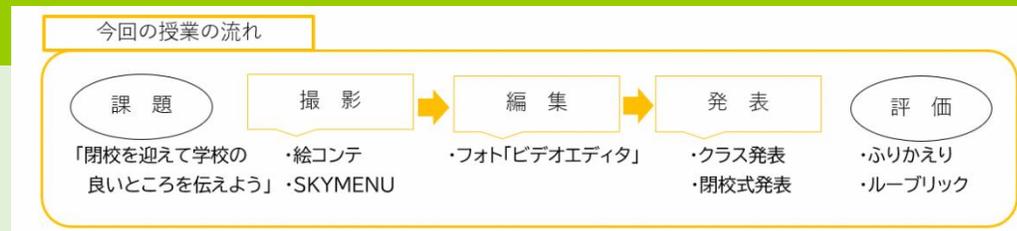
撮影の様子



編集の様子



児童が撮影した動画  
(約35秒)



「閉校を迎えて学校の良いところを伝えよう」の活動を評価しよう！

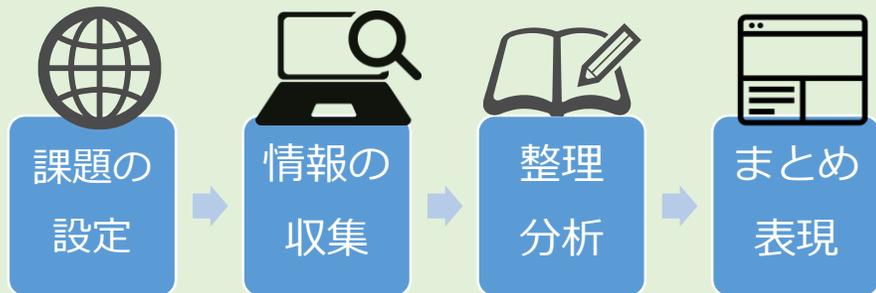
	A	B
思考	・これまでの学校生活を振り返り、学校の魅力や良さに気づくことができたか。	・資料、アンケート、インタビューで、学校の魅力や良さを調べ、理解することができたか。
表現	・相手にどう伝わるか考えられているか。 ・映像の選び方や見せ方、順番に工夫があるか。 ・伝えたい内容に合った映像を選んでいるか。	・伝えたい内容に合った映像を選んでいるか。

参考文献: 明治図書「情報活用型プロジェクト学習」ガイドブック

### 評価で活用したループリック

## 兵庫県の伝統工芸品の魅力伝えるwebサイトを作ろう

4年国語（光村）「伝統工芸のよさを伝えよう」の発展学習として行った。



情報は  
YouTubeか  
らも収集



児童が作成した記事



### ICT活用のポイント

Googleサイトは、リンクを共有すれば共同編集が可能です。ペアや班で作ることもできます。サイトは、閲覧できる人を制限できます。リンクのアドレスを知っている人のみ公開することができるので、保護者に学習の成果物を見てもらうなどの使い方もできます。



みんなで  
アドバイス



## 情報の収集・整理・分析

メダカについて、情報収集・整理を行いました。発達段階から、視点を示した上で活動をさせました。思考ツール上で共同作業を行うことで、収集した情報を整理しながら、情報共有も同時に行うことができました。1人1台で整理していく過程で、積極的に議論する姿が見られました。

また、チームでの共同作業が効率的になった分、分析も自然と行われて、課題解決へのアイデアを作成することに結びつきました。

様々な方法で情報収集することで、  
正確な情報かを捉え直す

目的や児童のニーズによってメモも  
手書きかデジタルかを選択できる

### ICT活用の ポイント

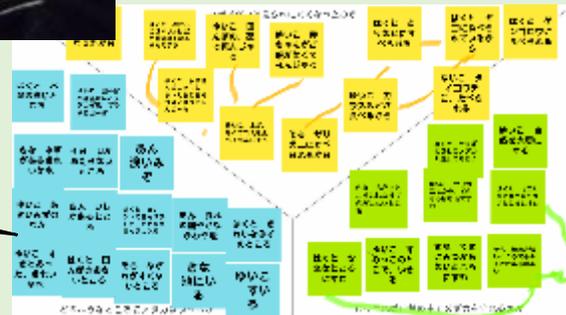
収集・整理・分析までの  
全てを共同のソフトで行  
うことで、学びがより連  
続的なものになり、チ  
ームでの探究活動が計  
画的なものになります。教  
師が単元デザインの際  
に情報活用能力の育  
成を意識することが大  
切です。



この本にも同じこと  
がのってる！



「関係する情報は  
線で繋げておこう」



思考ツールを活用して、リアルタイムで情報の構造化



「メダカの住める場所が減っ  
ているからつくろう！」

「自分たちだけでは無理じゃ  
ない？」

「町役場の人に説明して  
手伝ってもらおう！」

## 社会とのつながり

自分たちの考えた課題解決へのアイデアについて、正しく客観的に理解するために、メダカを専門的に研究されている方にご助言をいただきました。自分たちの学習を批判的に捉えることができるよう、情報を正していただきながら、児童自身の問いに繋がるよう言葉がけをいただきました。何より、有識者に学習した分野について語っていただくことで、知的好奇心が引き出され、より主体的に探究活動に取り組むことができました。

### ICT活用のポイント

オンライン通話（Zoomなど）を活用します。なるべく児童とやりとりがしやすいように、相手を映す画面とこちら側のカメラは同じ場所に置くと、やりとりがしやすくなります。

有識者の方から助言を受けたり質問したりする



メモの取り方も手書きやデジタルメモなど多様な方法から自分に合った形で選択する

## まとめ・表現・社会参画

専門家にいただいた助言から情報を整理し直した上で、課題を解決するためのアイデアを考えました。町役場の方にメダカの生息環境が町内にあるかを聞き、その保全を訴える班、学校に簡易なビオトープを作り、ポスターを校内に貼って野生のメダカを学校で増やすために、捕まえたら持ってくるように呼びかける班など、さまざまな解決方法が見られました。

### ICT活用のポイント

収集・整理・分析までの全てを共同のソフトで行うことで、学びがより連続的なものになり、チームでの探究活動が計画的なものになります。

「多可町内に用水路や溝が整備されていない田んぼはありますか？」



「流れはなくていいけど、きれいな水は取り込めるつくりにしてもらおう」

町役場の担当者にビオトープを造る提案のためのスライドをつくる

## 情報手段の基本的な操作の習得

総合的な学習の時間では、探究のプロセス [①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現] において、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用させることができます。  
〈小4・福祉について考えよう〉



Googleスライド

### ICT活用のポイント

児童は、漠然とPCを使うのではなく「調べたことをプレゼンテーションする」(④)というめあてに向かって①②③の場面でも自分たちで何をするのように使えばいいかを考えながら活動することができました。

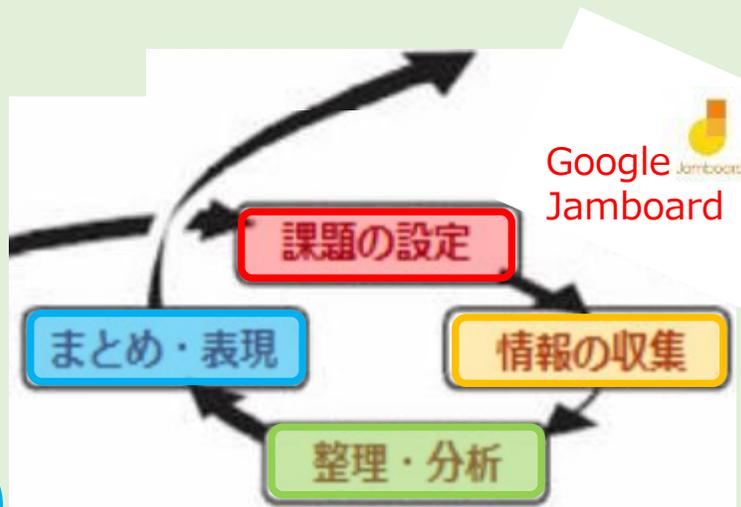


まとめ・表現の場面(15秒)

せっかく1人1台あるので

スライドを動かす用  
と  
台本を表示する用

の2台を使って発表。  
難しい設定はありません



## 試行錯誤・プレゼン作成・練習

1人に1台の端末があることで、十分に試行錯誤をする機会を保障することができます。友達の画面と比較しながら取り組んだり、プログラミングの作業に留まらず、プレゼンのスライドを作成したり、録画をしたり多様な使い方ができます。また、「今日の記録を写真に残そう！」など、子どもが使い方を考えることにもつながります。

<第4学年 総合：プログラミング>



## オンライン交流会で、他者意識をもって発表

他地域小学校の異学年との交流をしました。相手校から感想をもらうことで、さらに意欲を高める姿が見られました。また、社会科などの学習と関連させ、他地域の様子についてインタビューするなどの活動にもつながります。

<第4学年 総合：プログラミング>

### ICT活用のポイント

学校外の人と交流をするという目的意識を持たせることで、声の大きさや抑揚、表情などに気をつけて話そうとする姿勢が強くなります。



オンラインによる他校への発表